二十日夕刊
大祭第一第三日曜休刊
定價（壹枚二錢、五十錢、郵税十錢）
廣告料一行五錢（指定廿錢增）
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社
電話五六四番

讀者欄

遊女の露拂ひ

山部　正男

九月十八日附一二新聞紙上に於て「神輿渡御に遊女の露拂ひ」と題し平町子鍬倉神社の例祭に當り遊女が神輿の前頭に立つて露拂ひを渡御の神事行列に猿田彦になした爲め氏子間の問題となつてゐる旨の報導ありしも氏子間の問題云々とは學問無根の風説である、殊に花柳の女子と雖も修拔を受け三日間精進手古舞ひを勤めし其の眞面目な信仰振りは關係者一同の等しく感服する處にして學實は露拂ひをなさしめたものにあらず古舞は花柳の方々にして素人の女子の勤めは會つて聞かざる處なり

然るに安達氏は、自己の不德と不明なるを悟らず、頻りに人を派して黨員を鎮撫しつゝありと云ふことである。が、何と云ふても床次氏を去らしめたのは安達氏等れ者として世間の處置甚だ宜しきを得なかつた結果である。江木町田進及原の諸氏亦連帶してその責に任せるべからず。立黨の精神を體得する黨員を、彼等幹部に對する不平の黨員と看做して之を鎮撫するとは以て外の事である、自己の慾望を滿すに汲々！

公正なる黨論を無視する行動を一貫し來つたる彼等は、多年の不屈、陳謝以て此機會に於て黨を脱し、且屑く議員を辭職して政界を引退すべしである。此は黨が床次氏の脱黨に依つて民政黨が有形無形に被りたる最大なる損害に對して、責任上當然執らねばならぬ處置である。私は先づ安達氏に向つて勸告すると此際一切政治上野心を捨て本善還、隠退されたいと如何。氏は家に後顧の憂なく年活の餘裕線なるあるを弄ぶ亦樂しからずや。風流な友と書を弄ぶ亦樂しからずや。

氏にして此勇斷果決あらば君は政黨に絶ち、專ら上院に在つて法制上の經綸を吐露することに努められたならば氏の黨界に對する最大の貢献たるべしである。

噴火山上の民政黨（七）

黨弊打破の結論

森田代議士

本稿は民政黨を脱黨した森田代議士が今回公にせる民政黨の内容である。

終に臨んで私は國民の爲す處であるが、夷狄を脱すに安達氏以下民政黨の首腦部に在る人々に苦言を呈しかれざる處あり。衆望を最も必要とする政黨には頗る能はず、何となく人に好かれたい、眼ある國民は既成政黨に飽いて居る而して一般不向の人である。若し夫れ國民は此苛烈なる政爭に對して一見呑氣なる父さん然たる處あるも事實は之に反して縱横の策略してほどゝ愛想をつかして居る。國民が政黨の信用せざるは政黨の首腦部に在る點に於て稍安達氏に似る人々が、終始政權獲得を唯一の目標として行動するかである。政府とその與黨を牽制する爲に期待を掛けたる在野黨の幹部の心掛けが、斯樣に間違つて居るから、心が次第に離反して行くのである。安達氏之を悟らず、江木、町田氏等亦之に意着かず自己の思想を以て國民を指導し、自己の腕力量を以て黨勢を維持する處に、甚だしきものである。敢て何と云ふても憲政會は加藤伯によつて憲政會である。

又民政黨も床次氏が居た爲に一段強みがあつた。伯亦去し床次氏は黨を見限り、頼みは到底口氏や安達氏等にては支へられない。床次氏脱黨の眞相如何。私は屢安達氏の言説に聽いて同氏の抱負識見が飽くまで現代と隔絶し居る。

然るに安達氏は、自己の不德と不明なるを悟らず、頻りに人を派して黨員を鎮撫し、また一富豪である失はれ、その適所にあらざる政頭を擡げた

「併し何處が有るのであらうがな其方は以前雪江の實雪江が長崎まで參ると思ふ

「では今有ると申したのはその宿元の事か、それしきの事を小半どきも考へて稍と思ひ出す奴があるか、たはけめ」

と叱られて、與平は又た

「泡を食つた

「む、む、それぢや、それぢや」

と平馬は乘氣になつた

「と、何處ぢやの其者の嫁人先は」

「些と遠方で……肥前の長崎で」

「た、たはけた事を申す、

「左樣でございますなア、先づ一番名の通つてゐるのは青山の善光寺、その次が谷中の龍華庵、それから深川の月桂寺、探したらまだございませう」

「いや、なか〳〵能く心得て居るの、感心な奴ぢや」

「ドッコイ、〆めたぞ」

「何を〆めた」

「エ、稍とこせいた麥酒が出ましたんでな、有難涙がこぼれますよ、エヘ、足掛十年奉公してるが平馬さまから褒められたのア是がオギャア〳〵の初産だ、ハテ天氣が變らなければ可いがな」

「何をゴトル〳〵申して居るエート與平、然らばぢや」

「お叱言なら最う御免で」

「其方へあらためて申附ける、今日只今から直と罷り出ての雪江の宿元を先づ一應明確かめて親勘兵衛へも委細を知らせた上、其の善光寺から龍華庵、月桂寺を殘る隈なく聞合せ、いづ方に雪江が罷りあるとも主命ぢや、と嚴しく申聞けて今日の暮六つまで速かに同道立歸れッ」

「ウ、八十餘歳の爺ぃ

女中たちはに蔭さまで好い保養が能きたと臍の皮を撚つたが調査委員の平馬は氣か氣でない。

「さて〳〵困つた奴ぢや、何を申し聞けても埒が明かん」と苦い顔をしたが急に氣が注いて

「コレ、與平其方は存じて居るであらう、江戸市中に於て名高い尼寺と申すのは何處かさアそれを申せ」

「左樣でございますなア、先づ一番名の通つてゐるのは青山の善光寺、その次が谷中の龍華庵、それから深川の月桂寺、探したらまだございませう」

「いや、なか〳〵能く心得て居るの、感心な奴ぢや」

「ドッコイ、〆めたぞ」

「何を〆めた」

「エ、稍とこせいた麥酒が出ましたんでな、有難涙がこぼれますよ、エヘ、足掛十年奉公してるが平馬さまから褒められたのア是がオギャア〳〵の初産だ、ハテ天氣が變らなければ可いがな」

「何をゴトル〳〵申して居るエート與平、然らばぢや」

「お叱言なら最う御免で」

「其方へあらためて申附ける、今日只今から直と罷り出ての雪江の宿元を先づ一應明確かめて親勘兵衛へも委細を知らせた上、其の善光寺から龍華庵、月桂寺を殘る隈なく聞合せ、いづ方に雪江が罷りあるとも主命ぢや、と嚴しく申聞けて今日の暮六つまで速かに同道立歸れッ」

評判ノよい專門藥
心臟圓　一圓　三圓　三圓
平五　山野邊藥局

平町田町
赤心堂病院
電話四七五番

講談　幕末秘帖狂怒亂心

渡邊　默禪作
宮野　歌春畳

(46)

「疲樣なア」と與平は感心

「しますとこりやア探して見ようといふ心當ぱ先づこざりませんな」と投出した

「なに無い？」

と平馬は窪んだ口を尖らして

「匠、シテそれは何年程前のことぢや」

「さア、十年も前の話で」

「ばかッ！十年前の八十が何年まで生きてゐるものぢやッ」

「や、又た失策つたか、それぢやアこんなのは如何でせうか、雪江さまがに氣に入りのたさんで暇を取る時に頂戴物ばかりもつゞらに依ると其方へ使つてた出他へた嫁に行てゐますが事になりやアしませんかな」

「では今有ると申したのは

「明日　暦月　新月　九
吉凶　蔵八　暦　廿日
※……明日……※
※……吉凶……※

◇文豪モオパッサン原作◇溝田空前大作品
◇名花　栗島すみ子主演
◇監督……池田義信
◇女が結婚當夜の恐しさ恥しさを母に打明げた時母の言葉は？
少女時代　戀愛時代
結婚時代　母性時代
あらゆる「女性」に捧ぐ……
◇母となつた妻は良人への悲しみを忍び得ず母に打明けた時母は
◇歡喜と絶望とに搖られる哀れ女の全生涯……

日活超特作品
大河内傳次郎主演

女の一生

新訂　忠次旅日記大會
▽甲州殺陣篇
▽信州血笑篇
▽忠次御用篇

九月二十日より

土曜日學生デー
高級常設　平館
電話四六六

新製品着荷御案内
優美典雅な御大典記念時計の種々着荷致ました
記念として永久的な御贈答品に最も良く値段も
三圓より拾圓位迄す御散歩の折柄是非御立寄
御覽を願上ます
院長敬白
大谷時計病院
電話一九番

初秋の御用意品案内
合着シャツとして確かに皆樣より歡迎を受けるスムースシャツは肌觸り滑かで實用的であります
並　一圓五十錢
大　一圓八十錢
綿ネルと本ネルのワイシャツ
中折帽子　扁打帽子
中山帽子　子供帽子
新柄種々陳列致しました
ツルヤ商店
電話百四十番

三百本一組景品ノ内容

壹等	十八金厚側西瑞製拾石入アンクル十形腕卷時計	三個
貳等	クロム側拾形西瑞製十石入アンクル腕時計	五個
參等	最新式置時計	拾五個
四等	舶來二ツ折レシース	三十五個
五等	弊店名入手拭	殘全部

本特賣抽籤ニハ全部空籤ナシ

特賣期間　自昭和三年九月一日　滿二ケ月間　昭和三年拾月卅一日
抽籤場所　公會堂
抽籤方法　在中新聞記者立會嚴正施行ス
抽籤發表　御即位式當日當籤者各位ニ通知ス
景品引換　抽籤發表一ケ月以内トス

御大典記念景品附特賣
コサツク萬年筆記念名入
號壹　價特　金貳圓
號貳　價特　金貳圓十四錢
號參　價特　金貳圓十八錢
其他各種
磐城平町
高倉天地堂

新築落成
▽設備完全心地よき客室
▽宴會に便宜な大廣間
木の香も新らしく
通風採光の佳良
磐城小名濱町横町
御料理旅館　龜屋
電話一二番

三益玉炭のお奬め
三井物産會社ガ多年ノ研究ノ結果專賣特許ヲ得タ最モ文化的ノ木炭代用ノ高級燃料デス
値段個數
壹箱八百個
金貳圓外内
□無煙無臭デ、火付ガ早ク火持チ良ク、火力ガ强ク日常ノにやきニハコンナ便利ナ品ハアリマセン
□ソレデ値段ハ大變お安ク木炭ノ三分ノ一デ充分間ニ合ヒマス
□ドンナニ喰はずきらいノ人でも一度使ヘバ必ズ御氣ニ召スノガ色ノ玉炭ノ特長デス
御參考ニシカ申シ越デアリマス次第ニ御覽下ニ見ニ越シ本供下サイマシ
平鹽町　阿部石炭商店
電話二三七番

署長以下總動員で 脱逃犯人の捜査

勝手知った山傳へに 密林深く潜伏か

昨報――郡山署から平署に森刑事が護送の途中小川赤井間を警進中の列車の窓口から飛降り逃走した安積郡片平村大町前前三犯の怪盗山内直次（三九）の行方は其の後引続いて平署猪狩警長以下總動員で捜査を續けてゐるが

皆目不明　で赤井、上川の警察消防組等の應援を得て附近一帶の山狩りを徹夜したが本稿〆切まで未だ逃捕を見ないが犯人直次は列車から飛降りた際足部に負傷した形跡もあるので山中にかくれてゐるものと認られ平署は目下附近山林に捜査の手を擴げてゐるが犯人は當地方の地理に頗る明るい點から見て或は同夜中に山越に須賀川中通り方面にまで

逃げのび　たのではないかとも觀られ今明中に逮捕を見ない時は警察の威信を賭して附近一帶に落ちる事となるので猪狩警長は署員に嚴命高等係員まで出動して犯人捜査に死力を盡してゐる

取り逃がしたは 何としても殘念

責任感から重傷を負った 森刑事涙で語る

副頭犯人の列車飛び降り逃走事件に關し篤い責任感より一身を挺して之れを追跡する爲め列車より飛び降り重傷を負った平署森刑事の私宅に訪ふと、自分の不注意から犯人を逃がしたことは何とも申譯なく遺憾に耐えませんと前提し

犯人が川前をすぎると腹が空ったから弁當を食べたいと云ふので捕縄を緩めてやったのが仰々の間違ひで食事が終ると直ぐ便所に行きたいと云ふので其の儘後に次いて行くと犯人は便所の戸を明けたと思ふと鳥の如く疾や窓口から身を外して了ふ瞬間飛び付いて犯人の着衣のスソを掴んだのだが時既に及ばず殆むど無我無中で列車から飛び降りた、ボーッとして夢から悟めた様に四邊を見ると雨は闇を突いて物の黑白さへも判然せず手探り同様に附近の籔中を探して見たが見當らず、傷が痛むので據り所なく小川郷に急を告げた次第です！

飯も食はず便所にもやらなかったら此んなヘマは無かったのですが人道上それを拒む譯けに行かず同情をしたのが反つて仇になりました、彼の犯人の爭は前後三回も捕へ顔見知りの間でもあるし俺れの同情に叛くなんて罰か當りませう」と無念の涙に眼を沾した

自轉車組合

平署管内に組織

最近自轉車の盗難頻發するに鑑みこれを豫防する一方各自の不正行爲を未然に防ぐ目的から石城郡下の自轉車所持者は自轉車組合なる組織を目論まれ平警察署長を會長に推し各村落に支部長を置く計畫だが實現の曉は盗難は勿論當局を悩ます巧妙な行爲をも防ぐ由である

識者の與論となる 入學難の緩和

若し實現すれば理想の 中等校の改正案

石城郡地方に於ける中等學校の入學難問題は益々紛糾の與論を高めつゝあるが目下當局に於て立案中の中學校の改正案は尋常

小學卒業　後の高等科一ケ年の教育方針は中學に於ける一、二年の教育と全く異る等の關係から强硬な反對意見もありかたゞ〳〵時期尚早を理由として躊躇らぬものと見られて居るしかして夜間中學の問題は近く決定を見る方針であるが、夜間中學を認めることは入學難を緩和せんとする目的に出でたるを以て從つて今後夜間中學の新設を奬勵するものにあらずしてちう間中學に入學し能はざる學徒に對する家庭の子弟を教育せんとする社會政策的見地から之を認めんとするものであ

此目的の　下に教授に要する諸設備の充實、學科課程等の標準に關しては夜間中學に入學する子弟は、いづれもちう間各種の勤勞に從事して居るものゝみなるを以て授業時數の如きも一日二時間から三時間で、一週二十時間、修業年限六ケ年とするもので、將來財團中學を認めることは入學で夕食を無償で供給せしめ等の案であるとも

郡聯合青年 体育大會

廿三日磐中で

石城スポーツ界年中行事の一として數へられてゐる石城郡聯合青年團主催郡下青年体育大會は愈々來る廿三日午前九時三十分から磐中競技場に於て盛大に擧行するが今大會は明治神宮大岸軌道會社支配人丹野寛中氏の經營に係り先代より引會の地方豫選をあるだけ各村の青年團は必勝を期して猛練習を續けてゐるが當日の競技種目は次の十一種目である

△百米△四百米△千五百米△一萬米△八百米リレー△砲丸投△走高跳△走幅跳△柔道△劍道△相撲

巾跳

尚大會の出場資格は滿廿五歲以下滿一ケ年在團したる郡下町村の青年團員である

郡下少年庭球 出場選手

後衛	平山盛宇	柳内五郎	高萩久利
後衛	水野岩男	坂本四一	木田英夫
後衛	佐藤松意	鈴木五郎	深谷喜一
前衛	中島勇馬	大平喜三	大沼廣秋
後衛	渡校	小川校	好間校
後衛	佐藤致中	小野村宏	伊藤勇
後衛	上田大貫	管德彦	淡輪正雄
後衛	坂田哲郎		

磐崎第一校　磐崎第二校

施設の仕樣如何で 立派な農村郷

農家は全郡の三分の一 農會當局の立案

石城郡農會では東北のデンマークを建設すべく各種の事業を開始して來たが當郡は農業家である事が解り一町村の農家を平均すると四百四十戸ある事になる、夢となつた

六十九戸合計一萬四千九百八十四戸で全戸數の三分の一に過ぎず、經營主体の如きも尚大會の出場資格は滿廿五歲以下滿一ケ年在團したる郡下町村の青年團員である

完備して　ないので調査をなした處に依ると郡の全戸數三萬五千百四十九戸の中農家は自活五千六百八十九戸、小作三千五百七十七戸、自作兼小作四千三百四十九戸其の他一千三百

落成の亀屋

理想的の高級旅館

小名濱町濱町亀屋旅館は海岸軌道會社支配人丹野寛中氏の經營に係り先代より引巨費を投じ新築工事中の處いよ〳〵完成したが客室は余り香も新らしく設備完全して通風採光に意を用ひ

工夫　に着手せるが種々の暗礁に遇ひ方途にして挫折し

三日又　また雨があるのでまた

中年作　は大丈夫と豫想されるに至つたので一時天井知らずと報導されたものが最近一圓五十錢の漸落を示しつゝ落ちしの商況を辿つてゐるが穀物檢査所の調査したところによれば現在石當り平均産米廿九圓廿九錢前旬より一圓廿錢安、移出米卅一圓九十四錢で一圓五比し白米石當り六十二錢方の産地安となつてゐる

鮟川堰の復活に 關係民の陳情

植田町外一町四ケ村代表 代表大擧出縣

石城郡植田町外一町四ケ村鮟川堰水利組合が二十數年頃發病同村鈴木十七日腸チフスと判明隔離前數十萬圓の大經費を以て

工事　に着手せるが種々の暗礁に遇ひ方途にして挫折し

穫　する者もあるが近年になり

増収　を見る模樣であるとしつゝあるに苦るしんでゐる永年の懸案として復活策に腐心中であつたが先頃來いよ〳〵具体化し他くまで實現せしむべく關係町村長會を開いて準備中なる事は既報せるが廿一日植田小野助役小名濱鈴木町長玉川永井村長上遠野吉田村長泉中村々長渡邊水野村長等古川鷲南氏を殆め同郡選出の六名の縣議と共に關係書類を携へて出縣復活陳情を行ふ

四倉　町猪狩平町野崎の三組合長は平町縣聯合組合石崎副組合長並に相馬双葉兩郡代表委員と共に出縣各方部會長の連署に成る請願書を提出それ〳〵意見を具陳して十八日歸郡せるが縣が如何に裁斷するかに就いては同郡は勿論一般營業者から非常に凝視されてゐる問題である

蒟蒻は豊作

石城の山村地方

石城郡南入遠野上遠野田人の山村部の特産蒟蒻は六七月の病虫害のはん殖する頃に一般農作物なら晴天高温を必要とするが蒟蒻だけは正反對に降雨續きの濕潤な

石城理髪組合 出縣陳情

規則制度緩和

石城郡各理髪業組合では近く改正となるべき組合法および試驗制度實施に伴ふ現營業者の死活問題に就き寄り〳〵協議をなし各地組合歩調を合せ善後策考究中のところ十五日植田町相良、

局長　に榮轉した吉田久民は二十二日午前九時五十五分平發にて仙臺に向ふ筈

石城の米價 漸落

六十二錢産地安

石城郡下昨年の米價は二百十日二百廿日が近年稀なる平穏のため出來秋の天候順調で一同杞憂してゐた減收もなく最初の豫想を裏切り

平年作　は大丈夫と豫想されるに至つたので一時天井知らずと報導されたものが最近一圓五十錢の漸落を示しつゝ落ちしの商況を辿つてゐるが穀物檢査所の調査したところによれば現在石當り平均産米廿九圓廿九錢前旬より一圓廿錢安、移出米卅一圓九十四錢で一圓五比し白米石當り六十二錢方の産地安となつてゐる

四人組の若者連に 叩き拔かれた老爺

些細の口論が原因で 平署へ傷害の告訴

石城郡玉川村大字林城長瀬の藤沼平次郎、高久忠、鷲清昇、小野園次郎、馬目仙十郎、關内彦太郎、北澤久一郎、中野勇吉、渡邊則成の

十人　は去る十八日午後九時半頃玉川村大字岩出街道で差かゝつた際通り合せの玉川村大字野田字峰岸大和田昇（三三）同永山正司（二四）同永山淳二（假名一九）同森本良次（假名二八）の四名と些細の事から口論果ては大立廻りを始めたが四人の爲めに傘や下駄で袋叩きにされた揚句溝に叩き込れ半死半生となつてゐたのを通行人が發見慌ろいて小名濱町中村醫院に昇ぎ込み應急加療を受けたが前頭部に裂傷其の他全身數ケ所に可成の重傷で十九日惣平は前記四名を相手取り平署に傷害の告訴を提起した

特別社員推薦

石城郡地方左記諸氏はこの程日本赤十字社特別社員に推薦

石城 社寺を探りて（六）

〔小名濱〕鹿島諏訪社

△鹿島神社

小名濱町字松の中にあり歩兵帆波間に點在し遙かに白堊殿命を祀る、式外の古社にして國史見所の古祠なり口碑によれば景行天皇の皇子を奉じて東夷征討の砌り奉祀せらるといへど文獻詳かならず、或は云ふ、延歴年間田村將軍東征討の砌り奉祠せらるともいふ、寶歴八年社殿を造營し寛政十一年屋根葺替あり、境内潤く老松古杉鬱然林をなし、東南は洋々たる大海に面す、海岸の奇松排在の妙白帆波間に點在し遙かに白堊殿命を祀る、式外の古社にして國史見所の古祠なり口碑によれば景行天皇の皇子を奉じて東夷征討の砌り奉祀せらるといへど文獻詳かならず、或は云ふ、延歴年間田村將軍東征討の砌り奉祠せらるともいふ、寶歴八年社殿を造營し寛政十一年屋根葺替あり、境内に一社大年神